

平成27年度事業報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens (略称 JABG)
- 2：設立等 昭和41年4月11日(法人成立の年月日)
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
(定款第3条)
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。(定款第4条)
(1) 植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
(2) 植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
(3) 植物多様性の保全活動
(4) 植物園に関する支援
(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端1-15-11 ティーハイムアサカ201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外事情調査

調査先はイギリス。期間は平成 27 年 7 月 4 日～12 日の 9 日間。参加者負担金は 40 万円。主な調査内容はハンプトンコートフラワーショウ視察、植物園・庭園等のナショナルコレクションを中心とした視察（王立キュー植物園、ハンプトンコートパレスガーデン、ウィズリーガーデン、ウインザー サビルガーデン&バレーガーデン等）、プラントヘリテージ本部及びナショナルコレクション・デボン支部等との意見交換など。倉重祐二隊長（新潟県立植物園）を含む 17 名と現地案内 1 名が参加した。

2. 植物園概要

50 周年記念誌「日本の植物園」掲載原稿を兼ねた正会員のデータ収集・更新を実施。調査結果は「植物園ライブラリ」に掲載した。

3. 国際活動

10 月に中国・上海で開催された国際植物園連合アジア支部（IABG-AD）の年會に岩科会長が出席した。11 月にインドネシア・バリ島で開催された「第 5 回東南アジア植物園ネットワーク會議」に筑波実験植物園の國府方吾郎氏を派遣した。

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

平成 27 年度は、正会員 14 園から寄せられた情報をもとに種苗交換植物リストを作成。リストには植物多様性保全事業における「絶滅危惧植物種の種苗交換」、ナショナルコレクション委員会からの情報提供依頼も一緒に掲載し、正会員に斡旋を行った。なお、「絶滅危惧植物の種苗交換」は種子保存拠点園である環境省新宿御苑がとりまとめとリスト作成を行った。リスト小冊子は正会員に 2 月初めに配布した。

2. 植物多様性保全拠点園事業

①絶滅危惧植物保有状況調査

50 回大会にて経過報告を行った。当協会植物多様性保全 2020 年目標においての、2015 年中間報告に向けたデータ収集を行った（27 年度末：1,138 種類、絶滅危惧種の 64%を 56 園で保有）。

②絶滅危惧植物保全データベース

データベース分科会を 3 回開催。50 回大会にて改訂版マニュアルを作成配布（カラー印刷 500 部）。「絶滅危惧植物保全データベース」に、都道府県レベルの希少種情報の充実のためのシステム修正を行った。新規情報提供施設への ID 及びパスワード発行、拠点園中心にデータ入力を継続、分科会委員により情報公開のためのスクリーニング作業を行った。（データベース総情報提供数；674 件、

生育特性情報掲載植物種数；537種)

③絶滅危惧植物の情報取り扱い検討

種苗交換時に「絶滅危惧植物の情報取り扱いガイドライン」を配布し、ガイドラインに対するアンケート（回答数 42 園）を実施した。

④植物多様性保全拠点園ネットワーク事業

- ・ニュースレター発行：配布とホームページ掲載（17号-19号、各1000部印刷）。
- ・関東拠点園連絡会議（3回 5/14小石川植物園, 11/26新宿御苑, 2/23神代植物公園）。
- ・西日本拠点園交流会（1回 10/26広島市植物公園）。情報共有のためメーリングリスト開設。
- ・特定植物保全拠点園活動：「水草保全ネットワーク」定例会議（6/25京都府立植物園）を開催。
- ・種子収集：秩父3回、茨城県1回、栃木県11回（活動の一部は、環境省の種子収集等に関する業務の一環として実施した）
- ・絶滅危惧植物の種苗交換：リスト（情報提供10園41種）を作成し、種苗交換事業の一環として正会員に配布し、斡旋を行った。
- ・東北津波被災地の絶滅危惧植物保全：東北大学植物園で希少野生植物の現状を把握するための現地調査を行った。

⑤外来植物導入・栽培ガイドライン

日本の植物園での外来植物対策ガイドラインの資料として、BGCIの「ヨーロッパにおける植物園での侵略的外来種の取扱規約」を和訳し、監修を専門家に依頼した。また、日本植物分類学会にてガイドラインに関するポスター発表を行い、有識者との意見交換及び分科会を開催して、日本植物園協会の外来植物導入・栽培ガイドライン案を検討・作成した。

3. ナショナルコレクション活動の展開

イギリス海外事情調査の際にナショナルコレクションを中心とした植物園・庭園等の視察やプラントヘリテージ本部等と意見交換を行った。委員会を2回開催し、ナショナルコレクション委員会が担当する事業内容を検討・確定、ナショナルコレクションの情報管理・植物体の公開・データベースについて検討を行った。農林水産省の農業生物資源ジーンバンク事業（ツツジ）に協力した。

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成7年から継続しており、平成27年度の任意放棄植物の受入園数は16園、寄託依頼植物数927株。27年度末での保護育成管理園29園、総保護数4,350株。

5. 東京都の絶滅危惧植物の調査業務

公益財団法人東京都公園協会から「神代植物公園植物多様性センター優先保全対象種調査委託」を受託し、植物の現地調査及びそれらの保護増殖カルテ作成、植物パネル作成を行った。調査及びカルテ・パネル作成は株式会社緑生研究所（賛助会員）に委託して実施した。

6. その他、生物の多様性保全に関する活動

- 「国連生物多様性の10年日本委員会」の委員として、広報等への協力を行った

■環境省との「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく事業を実施した。

- ・マルバテイショウソウ（高知県立牧野植物園）、サガリラン（沖縄美ら島財団）の野生復帰事業
- ・絶滅危惧種の種子収集事業（協力園：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園、高知県立牧野植物園、東京大学大学院理学系研究科附属植物園、東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園、西海国立公園九十九島動植物園）

(3) 学術や文化の振興

1. 第50回大会行事（50周年記念大会）

開催担当：京都府立植物園

会期：平成27年6月25日（木）～27日（土）

会場：国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、京都大学、京都府立植物園、武田薬品工業(株)京都薬用植物園

※50周年記念大会には秋篠宮殿下のご臨席を賜った。

実施内容：

- ・50周年記念式典及び祝賀会
- ・協会表彰（表彰4名）
- ・分野別会議
- ・委員会活動報告（植物多様性保全委員会、ナショナルコレクション委員会、将来計画検討委員会、国際交流推進委員会；海外事情調査報告）

- ・研究発表会

日時：平成27年6月26日（金）

内容：口頭発表10題、ポスター発表26題

- ・植物園研修：京都府立植物園、武田薬品・京都薬用植物園のガイドツアー

- ・50周年記念公開講演会「日本の植物園 世界の植物園」

日時：平成27年6月27日（土）

会場：京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール

講演：「日本の植物園—これまでとこれから—」岩槻邦男

「キューガーデンの現場から」山中麻須美

「植物園と生物多様性」マルクス・ラドシャイト

2. 植物研究会・技術者講習会

■第1回技術者講習会

担 当：内藤記念くすり博物館附属薬用植物園

期 日：平成27年7月30日（木）～31日（金）

参加者：30名

内 容：内藤記念くすり博物館及び附属薬用植物園見学、講演会、一丸ファルコス工場見学、伊吹山植物観察

講 演：「機能性植物成分の利用」坪井誠（一丸ファルコス株式会社）

「伊吹山の今昔物語」水野端夫（岐阜薬科大学名誉教授）

■第1回植物研究会

担 当：広島市植物公園

期 日：平成 27 年 10 月 26 日（月）～27 日（火）

参加者：24 名

内 容：テーマ「ナショナルコレクションと植物園の取り組み」

講 演：「江戸園芸の魅力と継承について」小笠原左衛門尉亮軒（名古屋園芸）

「園芸植物を守る～イギリスに見るナショナルプラントコレクション～」

倉重祐二（新潟県立植物園）

※第 2 回西日本植物多様性保全拠点園交流会を併催（16 名参加）した。

3. 「日本植物園協会誌 第 50 号」

日本植物園協会誌第 50 号（A4 判 190 ページ、480 部）を発行した。会員への配布のほか、全国の都道府県立図書館に寄贈した。

4. 分野別活動

■第 1 回目の分野別会議は、50 回大会開催時にそれぞれの分野で実施した。

■第 1 分野（第 51 回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

担当・会場：東京大学大学院理学系研究科附属植物園 日光分園

期日：平成 27 年 10 月 14 日（水）

参加者：11 名

議題等：1) 各植物園の現状報告、2) 教育利用のための相互協力、3) その他

■第 2 分野（第 33 回国公立植物園運営会議）

担当：新潟県立植物園

期日：平成 27 年 10 月 22 日（木）～23 日（金）

会場：新潟日報社メディアシップ、新潟県立植物園

参加者：37 名

テーマ：「植物園における子供の教育」 植物園運営の基軸のひとつである生物多様性や環境保全などに関する子供向けの教育普及活動をテーマとして実施した。日本の植物園における子供向け教育の向上を目指し、海外や第二分野での事例を紹介し、植物園での将来の可能性を討議した。

■第 3 分野

担当・会場：名古屋港ワイルドフラワーガーデン ブルーボネット

期日：平成 27 年 10 月 28 日（水）～29 日（木）

参加者：10 名

議題等：1) 2015 年度営業状況に関する情報交換、2) 次年度の各園の活動予定、3) 第三分野の取組課題、4) 次年度以降の講習会等について

■第 4 分野

期日：平成 27 年 9 月 10 日（木）

場所：長良川国際会議場、岐阜薬科大学薬草園

参加者：19 名

議題等：1) 50 周年大会報告、2) 2016 年の技術者講習会（北里大学）、3) 生物遺伝資源事業「生薬リソース」の選定提案について、4) 薬草ガイドブック、5) 絶滅危惧種保全活動関連

II：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. 植物園シンポジウム

①50周年記念公開講演会

期 日：平成27年6月27日（土）

会 場：京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール

テーマ：日本の植物園 世界の植物園

参加者：363名（会員127名、一般参加者236名）

講 演

「日本の植物園—これまでとこれから—」

岩槻邦男（名誉会員・東京大学名誉教授・人と自然の博物館名誉館長）

「世界遺産・キューガーデンの現場から」

山中麻須美（キュー植物園 レジデント・アーティスト）

「植物園と生物多様性—ヨーロッパ的視点」

マルクス・ラドシャイト（英国王立園芸協会 庭園マネージャー）

②第12回植物園シンポジウム ふるさとの植物を守ろう

テーマ：「尾張の殿様が愛した庭園と園芸植物」

期 日：平成27年11月1日（日）

会 場：金山都市センター 11Fホール（名古屋市）

後 援：第32回全国都市緑化あいちフェア実行委員会、中日新聞社、愛知県、名古屋市

協 力：徳川美術館

参加者：102名（会員等関係者24名、一般参加者78名）

参加費：一般参加者500円

内 容

・記念講演会「尾張徳川家の殿様と庭園趣味」白根孝胤（中京大学文学部歴史文化学科）

・事例発表「江戸の園芸植物を未来につなぐ」

「名古屋朝顔について」小笠原左衛門尉亮軒（名古屋園芸株式会社）

「名古屋城御殿つばきと尾張の椿」岡島徳岳（名城つばきの会会長、名誉会員）

パネルディスカッション

・パネル展示：日本植物園協会50年のあゆみ展、協力施設の取組紹介

③植物園セミナー

名 称：「江戸時代の園芸植物を未来につなぐ～朝顔編」

期 日：平成27年8月3日（月）

会 場：千代田区日比谷公園、緑と水の市民カレッジ

共 催：公益財団法人東京都公園協会

協 力：東京朝顔研究会

参加者：45名（うち一般参加者19名）

内 容：

・東京朝顔研究会によるアサガオの展示解説。

・事例報告「向島百花園における大輪朝顔展の魅力」

永留真雄（向島百花園サービスセンター）

・講演「江戸の朝顔熱～変化朝顔はなぜ流行したのか？」

平野 恵（台東区立中央図書館専門員）

④植物園セミナー

名 称：「江戸の園芸文化と植物園のこれから」

期 日：平成 28 年 1 月 18 日（月）

会 場：緑と水の市民カレッジ

参加者：14 名（会員のみ）

内 容：

・座学「江戸の園芸文化と植物園のこれから」

高橋 康夫（名誉会員、緑と水の市民カレッジ事務局長）

・見学 みどりの図書館東京グリーンアーカイブス特別公開「江戸の園芸植物」

みどりの i プラザ所蔵資料展「東京グリーンアーカイブスコレクション」

2. 展示

①「新宿御苑みどりフェスタ」（平成 27 年 4 月 29 日）に出展し、パネル及び希少な植物を展示した。植物展示には新宿御苑の協力を得た。当協会展示ブースへの来場者数は約 240 名。

②巡回 50 周年記念展示会「日本植物園協会 50 年のあゆみ展」

京都府・京都府立植物園（6 月 19 日～28 日 入場者数 1,580 人）

愛知県・名古屋市金山都市センター（10 月 20 日～11 月 1 日 入場者数 1,918 人）

愛知県・名古屋市東山植物園（12 月 1 日～6 日）

北海道・札幌市緑化植物園（10 月 29 日～10 月 31 日）

神奈川県・横浜市こども植物園（10 月 20 日～10 月 30 日）

兵庫県・神戸市立森林植物園（11 月 14 日～2 月 16 日）

※神戸市立森林植物園起工 75 周年記念特別展「森林植物園のあゆみ」と併催

高知県・高知県立牧野植物園（1 月 2 日～1 月 31 日）

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍

日本植物園協会第四分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布（販売数 4,988 冊）を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物とその文化に関する普及啓発を行った。50 周年記念誌「日本の植物園」は八坂書房の取扱いで販売した。

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル貸出

「日本植物園協会 50 年のあゆみ展」ポスターデータの提供を行い、日本全国での開催に努めた（7 か所）。また、生物多様性保全に係るパネルデータの貸出を行い、2 件の利用があった（大阪市内長居植物園・豊橋総合動植物公園）。

2. 植物園資料ライブラリの運営・更新

協会で作成した広報物（絶滅危惧植物マーク、パネル、あゆみ展ポスター等）や植物園概要の調

査データ、協会事業で得られた成果物等を資料化し、会員が簡単に資料を利用できるよう改善した。会員専用アカウントを作成し、閲覧・ダウンロードできる仕組みを整えた。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」事業

広報資材(ノボリ)を配布し、協会ホームページの投稿欄に関連行事案内・報告を掲載した(3件)。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

「50年のあゆみ展」等、協会事業を紹介する展示会の機会を活用し、広報活動を促した。

3. 日本植物園協会 50周年記念事業

50周年記念事業として、50周年記念大会、記念式典、祝賀会、公開講演会「日本の植物園 世界の植物園」、記念展示「日本植物園協会 50年のあゆみ展」を実施、記念誌「日本の植物園」を6月に発行した。50周年記念事業の報告は日本植物園協会誌50号に掲載した。

4. 東北大震災被災地復興支援事業

①被災地支援を目的とする、花のタネの提供(花を届ける夢の折鶴プロジェクト)を東京都夢の島植物館が継続して推進した。27年4月に26年度タネ提供先のうち3施設(飯坂恵泉幼稚園、福島文化笹谷幼稚園、陸前高田市立横田中学校)で贈呈式を行った。5年目の節目としての学校等への贈呈式は28年4月に実施する。

②宮城県岩沼市「玉浦西地区まちづくり」計画への復興支援活動。

「玉浦西地区」に対し、薬用植物に関する書籍と、玉浦西薬草園で使用する植物ラベルを寄贈した。

(5) 表彰

1. 表彰

木村賞：遊川 知久(国立科学博物館筑波実験植物園)

「ラン科植物に関する研究や展示温室の充実、絶滅危惧植物の保全活動をはじめとする植物園事業の発展への寄与」

植物園功労賞：篠原 秀順(京都府立植物園)

「京都府立植物園における、植物の育成管理や品種保存、新品種の導入及び植物園行事への貢献」

坂崎奨励賞：亀谷 芳明(内藤記念くすり博物館附属薬用植物園)

「植物園での教育活動や地域社会活動及び薬用植物の栽培管理や普及についての顕著な成果」

Aboc・CULTA賞：島田 有紀子(広島市植物公園)

「変わり葉ゼラニウムの品種名及び栽培史の解明ならびに品種保全」

2. 感謝状

50周年を記念して、日本植物園協会の活動に功績のあった8団体2個人に感謝状および記念品を贈呈した。

【感謝状贈呈者】北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園、東京大学大学院理学系研究科附属植物園、東京農業大学農学部植物園、名古屋市東山植物園、京都府立植物園、六甲高山植物園、坂崎信之氏、故 滝戸道夫氏、熱川バナナワニ園、株式会社東武百貨店、天藤製薬株式会社

Ⅲ：目的の達成に必要な関連事業

1. 後援及び協賛等

【後援】15件

- ①フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会
「平成27年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）」
- ②IUCN ラン専門家部会日本支部
「第8回「みんなで守ろう日本の野性ラン」シンポジウム」
- ③公益財団法人豊橋みどりの協会
「絶滅危惧種展」
- ④公益財団法人広島市みどり生きもの協会
「特別企画展『被爆70周年 広島市の樹木』」
- ⑤公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
「花と自然のフォーラム2015（助成事業成果報告会）」
- ⑥公益財団法人花と緑の銀行
「第23回 TOYAMA 植物フォーラム」
- ⑦高知県資源植物研究会
「高知県の自然環境と健康を考えるフォーラム」
- ⑧公益社団法人日本動物園水族館協会
「種保存会議シンポジウム」
- ⑨クリスマスローズの世界展実行委員会
「第14回クリスマスローズの世界展」
- ⑩株式会社夢舞台 兵庫県立淡路夢舞台温室
「淡路夢舞台ラン展2016 ランコンテスト」
- ⑪沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会
「平成27年度沖縄国際洋蘭博覧会30回記念大会」
- ⑫公益財団法人高知県立牧野記念財団
「すみれ・たんぽぽ展」
- ⑬公益財団法人日本補助犬協会
「第4回“もっと知って補助犬キャンペーン”」
- ⑭「花の力」プロジェクト実行委員会
「能登に残る江戸園芸 ～のとキリシマツツジ展～」
- ⑮大阪市立大学理学部附属植物園
「特別展示 私たちが住んでいる地域の絶滅危惧植物」

【共催】1件

- ①越後雪割草街道連絡会
「フラワートークショー2016」

2. ホームページ活用及び広報活動

- ・公益法人として必要な情報公開、各事業の告知や報告のため、ホームページの情報更新を行った。
- ・JABG ニュース（各4ページ程度）を会員に配布した。（7月、9月メール便 12月メール添付 ホームページ委員会作成）

3. 諸会議

1. 第50回定時総会

日時 平成27年6月25日(木)

会場 国立京都国際会館(京都市)

議題 第1号議案 平成26年度決算について、第2号議案 役員の選任について、
第3号議案 名誉会員の推挙について、

報告 第1号報告 平成26年度事業報告、第2号報告 平成27年度事業計画

第3号報告 平成27年度収支予算、第4号報告 社員等の異動状況

臨時総会

日時 平成28年1月18日(月)

会場 緑と水の市民カレッジ

議題 第1号議案 定款の一部変更について(「総裁」の条項追加)

第2号議案 総裁の推戴について(秋篠宮殿下の総裁推戴)

2. 役員会・委員会等

【理事会】

第1回臨時理事会(書面) 平成27年5月18日

第1回通常理事会 平成27年6月24日 京都府立植物園

第2回臨時理事会(書面) 平成27年8月20日

第3回臨時理事会 平成27年12月17日 事務局

第4回臨時理事会(書面) 平成27年12月29日

第2回通常理事会 平成28年3月10日 事務局

【執行役員会】(代表理事と業務執行理事による会議)

第1回執行役員会 平成27年5月18日 事務局

第2回執行役員会 平成27年8月28日 事務局

第3回執行役員会 平成27年11月12日 事務局

第4回執行役員会 平成28年2月10日 事務局

【監査】

・平成26年度事業について平成27年4月28日に監事2名による監査を実施した。

・平成27年度の業務執行状況及び財産の状況について、平成27年11月24日に監事2名による中間監査を実施した。

【委員会等】

・研究発表委員会

第1回委員会(1月20日)

・植物多様性保全委員会

第1回委員会(5月19日)

絶滅危惧植物保全データベース分科会

第1回会議(5月14日) 第2回会議(11月26日) 第3回会議(2月23日)

・ナショナルコレクション委員会

第1回委員会(12月4日) 第2回委員会(3月25日)

- ・協会表彰候補者選考委員会
 - 第1回委員会（選考会議 2月10日）
- ・将来計画検討委員会
 - 第1回委員会（8月24日） 第2回委員会（1月18日） 第3回委員会（2月22日）
- ・選挙管理委員会
 - 第1回委員会（11月5日）
 - 第2回委員会（12月10日）

4. その他

- ・関連団体等との連携、提携、協力

- 1) 環境省自然環境局と「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」を平成27年6月25日付で締結した。
- 2) 公益財団法人東京都公園協会と「東京都公園協会と日本植物園協会との相互連携に関する協定書」を平成27年6月25日付で締結した。
- 3) 「国連生物多様性の10年日本委員会」に委員として参画した。
- 4) 環境省自然環境局野生生物課が設置した「動植物園等公的機能推進方策のあり方検討会」に平成25年度から引き続き参画し、同検討会への協力を行った。

- ・協力要請

- 1) 千葉県農林水産部「千葉県花植木センターの植物の委嘱に関する周知」【担当：事務局】
- 2) 国立研究開発法人農業生物資源研究所「農業生物資源ジーンバンク事業参画への検討（ツツジの遺伝資源の保存及び配布等）」【担当：ナショナルコレクション委員会】
- 3) 一般財団法人自然環境研究センター「維管束植物の保全に向けた種子収集及び野生復帰技術の開発への協力」【担当：植物多様性保全委員会】

- ・特記事項

- 1) 源泉所得税に関する税務調査があり、問題なかった。

平成27年度事業報告 附属明細書

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。